

## 平成26年度活動報告書 (1/4)

学部・委員会名	学生委員会 (世田谷キャンパス)
学部長・委員長等氏名	学生部長 金子 忠一
担当所管	学生部学生課
テーマ	様々な体験による人間形成

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

<p><b>1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)</b></p> <p>1. 近隣住民から、「農大生の歩行マナーが悪い」、「自転車の危険な運転や違法駐輪が目立つ」等の指摘を受けることがある。</p> <p>2. 農友会や同好会の活動、収穫祭の各学科統一本部の活動への参加が少ない。</p> <p>3. 地域のイベントに一部の学生が参加・協力することがあっても、その事実を他の学生が知らない。</p>
<p><b>2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)</b></p> <p>1. フレッシュマンセミナーや、長期休暇前に指導・啓蒙活動を行う機会を設ける。実施は大学関係者だけでなく、警察の記録映像や地域住民からの実際のクレームを活用するなど、学生にとって真実味のある内容とする。</p> <p>2. 地域イベントへの参加を拡大するため、大学が積極的に広報を行う。例えば、学生の参加状況をネットで公開するなど、タイムリーな紹介を心がける。</p> <p>3. 地域活動との連携に対する「評価」を行う。コミュニケーション力や企画力など多面的な評価を実施して、学生の人物評価につなげる。</p>
<p><b>3. 達成度を判断するための指標</b></p> <p>1. 交通規則などの法令の順守は社会人として必須要件のため、厳しく判定する。</p> <p>2. 大学が行う広報活動に、積極的に学生を参加させる。例えば、HPで紹介する際の画像等の材料を学生から提供してもらうことで、学生の一定の緊張感を与え、モチベーションを維持する。</p> <p>3. 各種会議に教職員も参加することで、会議の場での学生の状況を把握する。</p>
<p><b>4. 成果・評価</b></p> <p>■成果</p> <p>1. 実施計画に基づき学生指導を行い、また通学路巡回等を行ったが、歩行マナーについてのクレーム、自転車による事故の減少につながらなかった。【資料別添】</p> <p>2. 地域開催の行事 (防災訓練等) に教職員及び学生が積極的に参加することで、地域連携と学生のコミュニケーション力アップの一助となった。【資料別添】</p> <p>3. 学外からの取材には積極的に学生からの情報提供を求めることで、学生の情報発信能力を育成することができた。</p> <p>■評価 (5~1 で記載してください)</p> <p>3 方針に基づいた活動ができた</p>
<p><b>5. 課題及び改善事項</b></p> <p>「歩行マナー」「自転車運転マナー」については、啓発活動や通学路巡回を引き続き行う。自転車に関する事故の対応として自転車保険加入の義務化、乗り入れ登録制などについて平成27年度の学生会で検討すべきと考える。</p>

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書(2/4)

学部・委員会名 学生委員会(世田谷キャンパス)

学部長・委員長等氏名 学生部長 金子 忠一

担当所管 学生部学生課

テーマ 「人物を畑に還す奨学金」制度の運用

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

<b>1. 目標(改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)</b>
<p>奨学金受給者選考の際、書類だけで個人の意欲をはかるのには限界がある。</p> <p>そのため、学部長・学科長が申請者と面談を行うことによって、受給要件にどれほど合致しているかを判断する。直接学生本人と話すことで、学生の「本気の度合い」を見ることができるのはもちろん、教員側も受給後のフォローアップに何が必要かを知ることができる。</p>
<b>2. 実施計画(具体的な方法・手段とスケジュールなど)</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>奨学金申請のための書類受付は、従来通り4月中旬以降5月中旬ころまでとする。</li> <li>各学科で書類をとりまとめ、記入上の不備や内容の整合性、添付書類の不足などを確認し書類審査を行う。申請不適切と判断された学生を除外する。</li> <li>学部長と学科長とで個人面談を実施する。これにより、学生の意欲や知識、技量などを判断する。同時に、奨学金受給後のフォローアップに必要な情報を入手し、後の指導に活用する。</li> </ol>
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>申請書類の完成度。書類が整っていることはもちろん、論述書の内容の充実度や論理的展開が正しいかなどをみる。</li> <li>面談での会話の内容。</li> </ol>
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>平成26年度は学部長、学科長による個人面談を実施することができず、平成25年度同様の選考方法となったが、論述書の内容を精査し、「人物を畑に還す奨学金」の趣旨に沿った学生の選考に努めた。</p> <p>■評価(5~1で記載してください)</p> <p>1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
<p>面談の必要の有無等選考方法については、各キャンパスと協議したうえで採用時面接の必要性を加えた原案を作成し、人物を畑に還す奨学金選考委員会で平成27年度の選考方法について審議していただく。</p>
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (3/4)

学部・委員会名	学生委員会 (世田谷キャンパス)
学部長・委員長等氏名	学生部長 金子 忠一
担当所管	学生部学生課
テーマ	各種奨学金制度の効果的運用

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

<b>1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)</b>
奨学金の受給を希望する学生が増加するに従い、説明会に参加しない学生や、必要書類の提出の遅れ・未提出等の事案も増えている。担当者はそのフォローが大きな負担となっている。
<b>2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)</b>
1. 奨学金受給希望者に対して、学科と協力しながら説明会を開催する。これにより適切な情報提供を行うことが期待できる。 2. 学生ポータルに奨学金関連に特化した画面を設定する。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
1. 説明会への学生の出席状況。 2. 必要書類の提出状況などを前年と比較し、実際の効果について検証する。
<b>4. 成果・評価</b>
<b>■成果</b> 1. 学科と協力し説明会を実施することができた。参加者は例年並みであった。【資料別添】 2. 学生ポータルを利用し、学生への周知を心掛けたが、学生側に学生ポータルを常に確認する習慣が身についておらず、思うような成果が見られなかった。 3. 必要書類の提出状況等は、概ね例年通りで大きな改善は見られなかった。
<b>■評価 (5~1 で記載してください)</b> <b>2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い</b>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
奨学金については、学生への周知が重要となるが、その主要ツールである学生ポータルを学生が有効利用していないことが大きな障害となっている。教務課とも協力し、学生ポータル利用について学生へ働きかける。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (4/4)

学部・委員会名 学生委員会 (世田谷キャンパス)  
 学部長・委員長等氏名 学生部長 金子 忠 一  
 担当所管 学生部学生課  
 テーマ 奨学金受給者に対する追跡調査及び面談

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

<b>1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)</b>
<p>奨学金受給者に対して、成績や修学態度などについて追跡調査を行う。</p> <p>それにより、学生が緊張感を持って学ぶだけでなく、学科も適度な緊張感を持って学生を指導できることになる。</p> <p>また、受給者に適切なフォローを行うことにより、奨学金の目的に合致した学生を輩出することになり、結果として大学の指導体制に対する評価の向上が期待できる。</p>
<b>2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奨学金受給者の成績や修学態度を、学習支援課や学科で情報として集約する。</li> <li>2. 年1回程度、学科ごとに結果をまとめて全学的に検討する検討委員会を組織する。(あるいは選考委員会が兼ねてもよい) 委員会で内容を評価し、学生に対して必要な指導を行う。</li> <li>3. 半期に1回、学生と学科教員、奨学金事務担当者の三者による面談を実施する。</li> </ol>
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験やレポートの提出状況など。</li> <li>2. 面談を行い、学生の中での達成度を口述させることにより、問題点の整理やモチベーションの維持をはかる。</li> </ol>
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>日本学生支援機構の通常の手続き業務が煩雑化かつ膨大化し、目標達成のための活動を行うことができなかった。</p> <p>■評価 (5~1で記載してください)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
<p>日本学生支援機構の受給者の追跡調査を行うことは難しいが、日本学生支援機構以外の奨学金受給者に絞って課題を検討する。</p>
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名	学生部委員会（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	学部長 馬場 正
担当所管	学生教務課
テーマ	新学生会館の「中味」を充実させるための利用計画案の作成

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
新学生会館の次年度完成を前に、「中味」の充実を図るため、農友会厚木支部総務部、統一本部、全学応援団、さらに同好会などに所属する学生と緊密に連絡をとりながら、新しい「器」にどのような「中味」を注ぎ込めるのかを検討する。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
部定例（月1回程度）、6 統一会議（不定期、収穫祭前は頻繁）などに出席し、学生とのコミュニケーションを図る。また学生委員会を通じて同好会の状況を把握し、新学生会館での魅力あるイベント開催を計画する。 新学生会館建設にともなって、新しく開催可能なイベントや展示会を計画し、その実現、開催に向けて準備に取り組む。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
新学生会館でのイベント、展示会の開催回数、参加人数など。（次年度以降）
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>部定例、6 統一会議に適宜出席し、学生とのコミュニケーションを図った。その結果、まずは新学生会館の会室や地下にある共通利用施設（音楽練習室など）に必要な備品、物品について、計画立案することができた。</p> <p>■評価（5～1 で記載してください）</p> <p>4</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
新学生会館におけるイベント、展示会などの計画については、各部、同好会に立案を依頼しているが、まだ具体化には至っていない。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名	学生部委員会（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	学部長 馬場 正
担当所管	学生教務課
テーマ	学生会館建設中に収穫祭や課外活動を停滞させないための施策

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
新学生会館建設にともない、従来と同じスタイルでの収穫祭開催は困難となる。また日常の活動の場となる部室面積も制限を受けることから、課外活動が制限されかねない。現有施設を有効利用することでこれらの解消に努める。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
旧学生会館の取り壊しにともない、4月以降は研修センターにある新しい部室で活動をせざるをえない。工事の関係があり収穫祭で利用できる建物、土地などが制約を受ける。専有できる面積が限られてくるので、徹底的な物品整理を行いながら、本当に必要なものだけを保管する。また現有の倉庫などの有効利用を図り、課外活動を停滞させないようにする。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
収穫祭の入場者数。
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>仮の学生会館（旧研修センター）への引っ越しを滞りなく行うことができた。占有面積は減ったが物品整理を徹底し、部間のコミュニケーションを図ったおかげで、活動を停滞させることなく活動を継続できた。</p> <p>収穫祭に関しても、工事に伴いステージ設置場所が確保できず、特別企画を体育館で実施せざるを得なくなったが、こちらも滞りなく大きな混乱なく当日運営ができた。入場者数も昨年から2,157人減の30,117人であったが、これは1日目の天候（雨）が大きく作用した結果であり、制約の中では立派に実施できた。全体の評価を推し量るのは難しいが、ここ数年では初めて来場者から感謝の手紙をいただいた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
まだ建設工事は続いており、来年度は新学生会館竣工を前提に計画を練る必要がある。引き続き、注視が必要である。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名	学生部委員会（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	学部長 馬場 正
担当所管	学生教務課
テーマ	課外活動を通じた「地域に愛される」農大の実現

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
厚木の地にキャンパスが開設されてから10年を超えた。今では地域のイベントの主催者から、部、同好会に応援演奏、出張演舞などの依頼がくるようになった。地元との関係をさらに親密にして、依頼があったときは必ず、またこちらからも積極的な提案を行って、地域に愛される農大の実現に向けて取り組む。厚木、さらに神奈川のイベントに農大がないとさびしい、と思わせられるよう、地域に開かれた課外活動を推進する。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
すでに実績のある部や同好会は、今まで以上に努力して、地域の方々に喜んでいただけるようなイベント協力を行う。 部、同好会と密に連絡をとり、依頼があった時に対応できるよう、常に準備しておくように指導する。場合によっては、資金援助も行う。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
イベント参加数。
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>本年度に行った学外活動は、総数147件（2015年1月末現在）で、昨年度比25%増であった。ほとんどの部が件数を増やしており、地域に開かれた課外活動に向けて着実に歩を進めている。仮学生会館での活動と制約された1年ではあったが、学生たちの積極的な参加がみられた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>5</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
今後も継続的に進めていく。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。



## 平成26年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名	学生部委員会（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	学部長 馬場 正
担当所管	学生教務課
テーマ	学生会館建設中に収穫祭や課外活動を停滞させないための施策

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
新学生会館建設にともない、従来と同じスタイルでの収穫祭開催は困難となる。また日常の活動の場となる部室面積も制限を受けることから、課外活動が制限されかねない。現有施設を有効利用することでこれらの解消に努める。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
旧学生会館の取り壊しにともない、4月以降は研修センターにある新しい部室で活動をせざるをえない。工事の関係があり収穫祭で利用できる建物、土地などが制約を受ける。専有できる面積が限られてくるので、徹底的な物品整理を行いながら、本当に必要なものだけを保管する。また現有の倉庫などの有効利用を図り、課外活動を停滞させないようにする。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
収穫祭の入場者数。
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>仮の学生会館（旧研修センター）への引っ越しを滞りなく行うことができた。占有面積は減ったが物品整理を徹底し、部間のコミュニケーションを図ったおかげで、活動を停滞させることなく活動を継続できた。</p> <p>収穫祭に関しても、工事に伴いステージ設置場所が確保できず、特別企画を体育館で実施せざるを得なくなったが、こちらも滞りなく大きな混乱なく当日運営ができた。入場者数も昨年から2,157人減の30,117人であったが、これは1日目の天候（雨）が大きく作用した結果であり、制約の中では立派に実施できた。全体の評価を推し量るのは難しいが、ここ数年では初めて来場者から感謝の手紙をいただいた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
まだ建設工事は続いており、来年度は新学生会館竣工を前提に計画を練る必要がある。引き続き、注視が必要である。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名	学生部委員会（厚木キャンパス）
学部長・委員長等氏名	学部長 馬場 正
担当所管	学生教務課
テーマ	課外活動を通じた「地域に愛される」農大の実現

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
厚木の地にキャンパスが開設されてから10年を超えた。今では地域のイベントの主催者から、部、同好会に応援演奏、出張演舞などの依頼がくるようになった。地元との関係をさらに親密にして、依頼があったときは必ず、またこちらからも積極的な提案を行って、地域に愛される農大の実現に向けて取り組む。厚木、さらに神奈川のイベントに農大がないとさびしい、と思わせられるよう、地域に開かれた課外活動を推進する。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
すでに実績のある部や同好会は、今まで以上に努力して、地域の方々に喜んでいただけるようなイベント協力を行う。 部、同好会と密に連絡をとり、依頼があった時に対応できるよう、常に準備しておくように指導する。場合によっては、資金援助も行う。
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
イベント参加数。
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>本年度に行った学外活動は、総数147件（2015年1月末現在）で、昨年度比25%増であった。ほとんどの部が件数を増やしており、地域に開かれた課外活動に向けて着実に歩を進めている。仮学生会館での活動と制約された1年ではあったが、学生たちの積極的な参加がみられた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>5</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
今後も継続的に進めていく。
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書（1/4）

学部・委員会名 生物産業学部 学生委員会学部長・委員長等氏名 吉田 穂積担当所管 学生サービス課テーマ 自然な挨拶

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

<b>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</b>
オホーツクキャンパスは、本学の世田谷、厚木キャンパスとは異なり、ほとんどの学生が親元を離れて一人暮らしをしている。入学時に陥りがちな孤独感を少しでも早く払拭し、新天地での生活に慣れてもらい、快適な学生生活ひいては卒業後の一般社会でもスムーズな人間関係を構築する上で重要なツールとなる挨拶の励行を推進している。
<b>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生には、入学のガイダンスで、オホーツクキャンパスで伝統となっている挨拶の意義を説明し実践を促す。</li> <li>・各部署（学部、学科、研究室、農友会および同好会等）でも、年度の節目に挨拶の意義を解説し実践を促す。</li> </ul>
<b>3. 達成度を判断するための指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署（学部、学科、研究室、農友会および同好会等）で、実施状況の確認と未履行の学生へ注意喚起。</li> </ul>
<b>4. 成果・評価</b>
<p>■成果</p> <p>多くの来校者の方々から、学生からの挨拶を受けたとの評価を得ていることから、その成果はあったものと判断している。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
<b>5. 課題及び改善事項</b>
<p>テーマ目標は概ね達成できていると考えているが、全ての学生達が挨拶を行えている訳ではないことから、学生だけではなく全教職員が挨拶の意義を常時学生に伝えられるような活動に取り組んで行くことが必要であると考えられた。</p>
<b>6. 平成27年度への継続の有無</b>
<p>無 引き続き学内で挨拶励行については喚起していくが、校内における挨拶についての認識は定着していることから、次年度からの主たる活動目標とはしないこととする。</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書(2/4)

学部・委員会名 生物産業学部 学生委員会

学部長・委員長等氏名 吉田 穂積

担当所管 学生サービス課

テーマ 交通事故防止への取り組み

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

## 1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

オホーツクキャンパスは、その立地環境から本学3キャンパスのうち唯一自動車(二輪車含む)での通学を認めている。しかし、車の利用は、利便性向上の反面、交通事故などのリスクも有する。特に在学生の年齢上、免許取得後の運転技術の未熟な学生が多い上、冬期の厳しい道路状況下での運転も余儀なくされる。そこで種々の取り組みを通じて、事故防止に向けた活動を実施する。

## 2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

- ・ 新生には、入学のガイダンスで、オホーツク地方での交通安全対策を説明。
- ・ 車両乗り入れ希望者には、必要書類（誓約書、自賠責&任意保険証書等）の提出&注意喚起。
- ・ 学内実施の地元警察署交通課の警察官、自動車教習所講師による交通安全講習会出席（年間5回実施：規定回数出席義務。）
- ・ 未登録車両のチェックによる、登録指導による交通安全意識の促進。
- ・ 教職員一体となったセーフティラリーへの参加による交通安全意識の促進。

## 3. 達成度を判断するための指標

- ・ 車両乗り入れ許可登録学生のチェック。
- ・ 未登録車両のチェック時の登録。未登録車両数の把握と未登録学生への指導。
- ・ 学内実施交通安全講習会の出席チェック。
- ・ セーフティラリーへの参加者数ならびに到達者数チェック。

## 4. 成果・評価

## ■成果

本テーマの達成を判断するための指標は全て実施した。さらに、地元自動車学校のご協力をいただき冬道走行の体験学習やNHK主催による暴風対策セミナーの学内開催などを行うことができたことから成果は十分であったと考えている。

## ■評価（5～1で記載してください）

- 5 方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度がきわめて高い

## 5. 課題及び改善事項

交通安全は常に呼びかけていく必要があるが、学生への伝達方法がマンネリズムに陥らないように注意し改善しなければならない点が課題である。

## 6. 平成27年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (3/4)

学部・委員会名 生物産業学部 学生委員会学部長・委員長等氏名 吉田 穂積担当所管 学生 サービス課テーマ 事故・事件防止・学生生活に関する学外機関や学外者との連携の強化

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

## 1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

オホーツクキャンパスは、本学の世田谷、厚木キャンパスとは異なり、ほとんどの学生が親元を離れて一人暮らしをしている。近年は、利便性が高く、手軽なコミュニケーションツールになっている携帯電話やコンピューターによる事件なども問題になっている。また不慣れな地域での一人暮らしでトラブルに巻き込まれることもある。そこで、学内での注意喚起を促すと共に、その防止策も含め、外部の専門家によるレクチャーを実施する。

## 2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

- ・新入生には、入学のガイダンスで、生活問題の説明と注意喚起を促す。
- ・フレッシュマンセミナーを通じて、外部の専門機関の方から、身近に起こりうるトラブルとその対応方法などについてレクチャーを受ける。

## 3. 達成度を判断するための指標

- ・各説明会への参加人数の確認と受講満足度のチェック。

## 4. 成果・評価

## ■成果

フレッシュマンセミナーにおいて新入生に対する学生生活を送るうえでの注意点等を外部講師により実施した。また、教職員に対してハラスメント及び学生メンタルに関する学習会を実施し、さらに、学部で実施された講演会などへの参加を呼びかけた。

## ■評価（5～1で記載してください）

- 2 方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い

## 5. 課題及び改善事項

学内の教職員のみでは対応できない専門領域について学外者との連携をはかることを模索したが、学生生活において多様に生じる課題に対応できる外部機関や外部専門家を確実に把握することが難しかった。今後は、このような人材のさらなるリサーチと連携方法について詳細に検討することが大きな改善点である。

## 6. 平成27年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

## 平成26年度活動報告書 (4/4)

学部・委員会名 生物産業学部 学生委員会学部長・委員長等氏名 吉田 穂積担当所管 学生サービス課テーマ 農友会・同好会活動ならびに課外活動の積極的支援と市民との交流

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

**1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）**

本学は、自己だけでなく周囲の人々と協調し活動することで、心身の健全な成長や様々な人間力アップに繋がるとの観点から課外活動を推奨している。オホーツクキャンパスでも、農友会活動などを通じ、収穫祭、体育祭、各種イベントへ積極的に参加を促し、勉学以外での人格形成アップに努めている。そこで、ガイダンス時に、学生組織について学生だけでなく教職員からの積極的サポートや説明を実施する。

**2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）**

- ・新入生に入学のガイダンスで、オホーツクキャンパスの各種課外活動を説明。
- ・農友会、同好会等への積極的参加を喚起。
- ・地域の活性化に繋がる各種市内イベントへの学生参加を促すため積極的な情報提供。

**3. 達成度を判断するための指標**

- ・各学生組織への所属学生数の把握。
- ・収穫祭および体育祭、各種学内イベントへの学生参加者数のチェック。
- ・収穫祭および体育祭への一般市民参加者数のチェック。
- ・各種イベント実施後の運用状況のチェックと問題点等の確認

**4. 成果・評価****■成果**

多くの学生が農友会や同好会に参加し積極的に活動していた。また、全国大会への出場部への壮行会や硬式野球部は秋の大会でベスト4に進出し、球場だけではなく学内でパブリックビューイングを設置し全学部的な応援の支援を実施した。さらに、本年度からオホーツクキャンパスにおいても体育祭を実施し多くの学生の参加とともに一般市民にも協議や模擬店に参加いただき交流を行った。

**■評価（5～1で記載してください）**

- 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

**5. 課題及び改善事項**

多くの学生が農友会活動に参加してくれているが、まだ、積極的に課外活動に参加できない学生も見受けられることから、このような学生でも無理なく課外活動に参加できるような方策を今後検討する必要があると考える。

**6. 平成27年度への継続の有無**

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。